

引揚記念公園



昭和45年(1970)、「岸壁の母」の舞台となった舞鶴引揚援護局跡地を見下ろす丘陵地に引揚記念公園が整備されました。公園には舞鶴引揚記念館が建設され、引揚橋を見下ろす展望広場には「平和の群像」や「異国の丘」「岸壁の母」の歌詞を刻んだ歌碑などが静かにたたずんでいます。



語らい



カリヨン



石のモニュメント



異国の丘・岸壁の母の歌碑



平和の群像



「あゝ母なる國」の碑

復元引揚棧橋

平成6年(1994)、引揚者が帰国の第一歩を踏みしめ、感動の舞台となった「平引揚橋」が、「引揚を記念する舞鶴・全国友の会」により、展望台の眼下にある平湾に復元されました。



館内のご案内

シベリアの地での抑留生活を知る資料をはじめ、引き揚げに関する模型や写真など、全国から約1万6千点の貴重な資料の寄贈を受け、常設展示にて1000点を超える展示をおこなっております。

03 苦境の記憶 ～世界恐慌からシベリア抑留まで～

舞鶴では、主として旧ソ連(現ロシア連邦)、中国などの大陸からの引揚者を迎え入れました。13年間に66万4,531人の引揚者と1万6,269柱の遺骨を受け入れました。終戦時、大陸に残された日本人およそ60万人がソ連へ送られ、その内の約47万2千人がシベリア各地のほか、コーカサス、北極圏等の収容所で長い年月、辛い抑留生活を強いられました。



白樺日誌



04 帰還そして再会

舞鶴では、引揚者が入港するたびに市民こぞって引き揚げて来られた方々を心から歓迎し、慰問し、勇気づけました。舞鶴港での引き揚げの様子、肉親との再会、そして、いまだ帰らぬ我が子・夫を待つ婦人の姿がいつしか「岸壁の母・妻」といわれ、歌や映画になり、人々の涙をさそいました。



05 平和への祈り

徐々に風化しつつある引き揚げの歴史を後世に継承し、平和の尊さを広く発信するために舞鶴が行ってきた平和への取り組みなどを紹介します。



館内では語り部さんから話が聞けます。

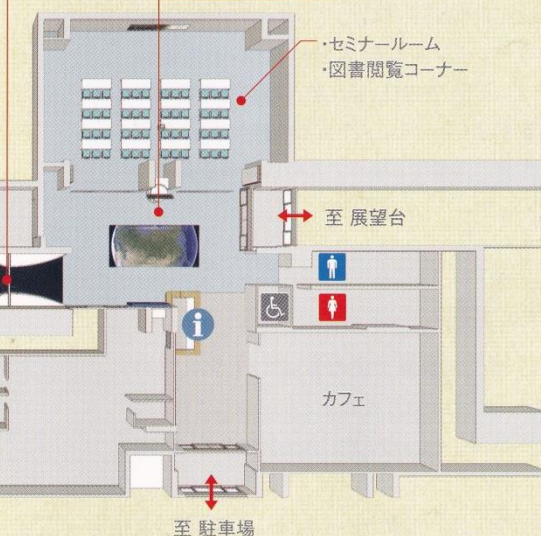
02 タイムトンネル

時代を象徴する印象的な写真により、激動の昭和へと誘います。



01 エントランスホール

- ・時鐘
- ・日本人収容所分布図
- ・ガイダンス映像



入館のご案内

開館時間 午前9時～午後5時まで(最終入館は4時30分までです。)
休館日 毎月第3木曜日(8月と祝日を除く) 年末年始(12月29日～1月1日)
入館料

	個人	団体(20名様以上)
大人	300円	200円
学生(小学生～大学生)	150円	100円

※市内在住、在学者は無料

共通券 一般個人 400円 学生個人 200円

(共通券は、引揚記念館・赤れんが博物館にご入館いただけます。)

身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳、被爆者健康手帳をお持ちの方は、受付でご呈示ください。入館料が半額になります。